

井上道義

Michiyoshi Inoue



井上道義&サンクトペテルブルク交響楽団

♪サンクトペテルブルク交響楽団との最初の出会いについて教えてください。

1975年です。まだ完全にソビエト連邦時代でした。ホールもホテルも今と変わりないですが、その頃は太ったオバサンがホテルの各階に見張りをしていましたし、部屋のお湯はちょろちょろとしか出ませんでした。しかしながら、オーケストラはその頃の規律が素晴らしい、こんなオケだったら指揮者は楽だなど…と若いながらも感じていました。

でもそれはかなり浅いかな感想であり、そこまで行くには大変な歴史があります。当時、マリス・ヤンソンスが副指揮者でまだオケを指揮するチャンスがなく、道義が指揮するのをご機嫌斜めで見ていたのを強く覚えています。ヴェルディ「運命の力」序曲や、ベルリオーズ「幻想交響曲」などを振りました。

♪2007年に日比谷公会堂で開催され、大きな話題を呼んだショスタコヴィチ・プロジェクトでもサンクトペテルブルク交響楽団と共に演されました。

日本公演のリハーサルを行うために現地に出向いたところ、大ホールを押えることができなかったようで、恐ろしく狭い場所でショスタコヴィチの7番の練習をした不幸な記憶があります。オケ側は、俺達の宝の曲をこの極東の指揮者がどう振るのかと興味津々でしたね。私なりにかまわずガンガン練習しました。多少、昔の響きが管楽器には残っていましたが、弦楽器は昔の方がうまかったなあ…と感じながら。ですが、やはりこのオケには強い意志のようなものが音楽の背骨があります。大好き。2007年の日比谷公会堂では、千葉県少年少女オーケストラが第1番のシンフォニーを猛烈に頑張って演奏したのを、彼らは楽屋で聴いていて、その後に第7番を演奏したため、前日の2倍頑張っていましたよ。終わってからは子供達からの花と握手の嵐。こういうのが本当の文化交流なのだと強く感じました。世代も国も越えてのお互いの誇りのぶつけ合いです。

♪現地サンクトペテルブルクでも共演されていますが、日本で指揮されるときと比べていかがですか？

お客様の質が素晴らしいです。自国の作曲家を詳しく理解している人ばかりなのが、指揮台に立つといっぺんで判ります。その点、バレエやオペラは観光客が多いですから違います。

アッと驚くアイデアをもって、スケールの大きな音楽を描き
私たちを未知なる世界へと連れて行ってくださったマエストロ井上道義さん！
意外にも自身初となる海外オーケストラの凱旋公演に向けて、
貴重なメッセージを頂きました！
さすがは、我らが道義さん！本音(?)も詰まった必見のインタビューです!!

INTERVIEW



マエストロとザ・シンフォニーホールについて

♪オーケストラ・アンサンブル金沢ほか、数多くのオーケストラを指揮されているマエストロからみて、サンクトペテルブルク響の魅力とは？

やはり、音楽が必要な場所に、必要な人のために、必要な人が演奏しているということです。世界と比べると賃金基準が安いため、優れた演奏家が外国に行く傾向が続いているのはとても残念ですが、やはり人はお金のみで動かないのです。

♪大阪公演では、あの伝説のショスタコヴィチ・プロジェクトの感動が蘇るショスタコヴィチの交響曲第5番を、そして前半にはチャイコフスキイ「ロメオとジュリエット」ストラヴィンスキー「火の鳥」という、骨太のオール・ロシア・プログラムになりました。

「ショスタコ5番はこうあるべきだ！」という演奏をします。間違いないショスタコヴィチの第5番には一つの解釈しかないと信じています。楽譜に全て書かれています。ただし、それを読み解くのは、そこに育ち同じ学校で勉強したことのある一つの常識を共有できるのみが知っているかもしれません。道義はその様な世界にとても憧れます。大きなスーパーマーケットの品揃えの様な、異常に選択を迫られることのない世界に。

チャイコフスキイは僕がどれだけロメオになれるか、ストラヴィンスキーは多少牛刀で暴れるような、あのオケがどれだけ精密且つロマンティックな音のお伽話が語れるか。やれるだけのことはやってみます。

♪以前、マエストロはショスタコヴィチに共感の念を抱かれていると伺いましたが、具体的にどのような思いを持たれているのでしょうか？

それは簡単には語れません。道義の生い立ち、生涯、マーラーへの傾倒、冷戦時代での東欧圏での多くの体験、男ばかりだった京都市交響楽団と古い京都会館でのショスタコヴィチへの開眼、ロシア内での小都市オケとの“ショスタコ・ツアー”、日比谷公会堂の再発見、ショスタコヴィチ全曲演奏会への大借金、所属事務所との葛藤…など、全てが僕の今のショスタコヴィチにたどりつかせる種でしたから。

♪2012年は、ザ・シンフォニーホール開館30周年記念ガラ・コンサートで、堂々たる素晴らしい演奏を聴かせていただきました。マエストロにとってこの30年は、どのような30年でしたか？

14才の時にプログラマされた人生の実現と脱線からの回復への楽しい回り道、想像の世界に浸るナルシスティックな生き方を曲げず、芸術至上主義が判らないお役目の人たちや、生活のために身を守ろうとする芸術集団の中の一部との戦いに明け暮れました。最近では、富士山の景色と、庭の開墾に心を癒され、旅行に眼を洗われました。

♪ザ・シンフォニーホールでの思い出や、エピソードなど、改めてお伺いできますと幸いです。

音楽的にはプログラムも含めて試行錯誤の連続の一言です。ヘルベルト・フォン・カラヤンと中華料理を食べた「ホテルプラザ」、朝比奈隆さんと寿司を食べた「ホテルプラザ」、第九の寸前、尿路結石の発作で七転八倒した「ホテルプラザ」が隣にないのが淋しいね。

♪最後に、マエストロの長いキャリアの中で、海外オーケストラと全国を回る凱旋公演は、意外にも初めてだと伺いましたが、ぜひ今回のツアーについての意気込みを熱く語っていただけませんでしょうか？

自らやろうと言い出さなかつたことだからだと思います。こういう欲がないのです。例えば、ウィーン・フィルとか、シカゴ響と全国ツアーをお願いされても「そんな大変なのはヤダよ…」とか言ってしまいそうだし。でもこれからは、自分の殻を破ってなんでも挑戦してやろう！という気概がマグマのように湧いています。今回サンクトペテルブルク響とのツアーはその布石かな。どうぞ期待してください！



1983年12月25日
井上道義指揮 第九交響曲



1995年3月13日
復興の日々に～勵ましのコンサート



2007年9月23日
オーケストラアンサンブル金沢 音楽監督就任記念



2011年9月23日
ヘンデル・ガラコンサート

井上道義の軌跡 at ザ・シンフォニーホール

井上道義指揮 サンクトペテルブルク交響楽団

[指揮] 井上道義
[管弦楽] サンクトペテルブルク交響楽団

チャイコフスキイ：幻想的序曲「ロメオとジュリエット」
ストラヴィンスキー：バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)

ショスタコヴィチ：交響曲 第5番「革命」

2013 4/20(土) 3:00pm

A 12,000円 B 10,000円 C 8,000円 D 売切れ